

平成29年度行政評価シート【個表】

平成 29 年 6 月 22 日

評価対象事業		評価者	再開発課担当課長 宇高 毅	
拠点-03	実施事業	大船駅周辺整備事業	自治事務	主管課 再開発課
			法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	市街地整備	施策の方針	市街地整備の推進

1 事業の目的

対象	市民等
意図	「大船駅周辺地区都市(まち)づくり基本構想」に基づいて、大東橋周辺、鎌倉芸術館周辺、大船駅南部などの各地区において、都市基盤施設や都市環境の整備を推進するため。
効果	「大船駅周辺地区都市(まち)づくり基本構想」に定めた地区の将来像の実現を図る。

2 平成28年度に実施した事業の概要

・大東橋周辺、鎌倉芸術館周辺、大船駅南部などの各地区のまちづくりの進捗状況の整理を行った。 ・「砂押川桜保全再生計画」に基づく、住民主体の保全再生活動の支援を行った。 ・大船駅北第二地区市街地再開発事業(横浜市域:組合施行)の実施にともなう協議を行った。

3 事業費等基礎データ

データ区分	27年度決算	28年度決算	データ区分	29年度当初予算	備 考
人口等のデータ	人 口 177,243人 世 帯 数 80,676世帯 事業の対象者数	176,869人 80,928世帯	人 口 176,466人 世 帯 数 81,150世帯 事業の対象者数	176,466人 81,150世帯	・各年3月31日(住民基本台帳)
運営資源状況	決算値(千円)	1,351	当初予算(千円)	446	
	国県支出金		国県支出金		
	地方債		地方債		
	その他		その他		
	一般財源	1,351	一般財源	446	
事業経費運営	人員配置数	1.1	人員配置数	0.6	
	人件費(千円)	8,233	人件費(千円)	4,597	
	総事業費(千円)	9,584	総事業費(千円)	5,043	
	市民1人当りの経費(円)	54	市民1人当りの経費(円)	29	
	対象者1人当りの経費(円)		対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	2. 廃止・休止による影響は小さいがある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	△-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○. 協働実施済
		協働実施済の場合のパートナー 砂押川プロムナード桜愛護会など
事業内容の方向性	☒ a: 事業内容を見直す → ☐ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →	見直しの種類 ☐ 拡大 ☐ 縮小 ☒ その他
		これまでの成果と課題を整理し、市民協働のあり方を含め取り組みを見直す。
予算規模の方向性	☒ A: 予算規模を拡大する ☐ B: 予算規模は現状維持とする ☐ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由
総評(評価に対する考え方、根拠等)	鎌倉市大船駅東口では、再開発事業の実施時期を延伸することとしたが、横浜市大船駅北第二地区では、平成29年3月から再開発事業の工事に着手している状況であり、横浜市と調整・連携し、個別・具体の課題について適切に対応していく必要があるため。	
	・大船駅周辺地区都市づくり基本計画(案)に基づき、各地区のまちづくり計画を進め、一定のまちづくりは進捗してきたが、各地区の計画は、策定後、約20年が経過しており、見直しが必要な時期となっている。 ・計画の見直しには、市民の参画・協力が不可欠であるとともに、一定の期間と費用が必要である。当面は、これまでの成果と課題を整理し、未実施の施策の重要度や実現性を勘案しながら、柔軟に対応していく必要がある。今後、市民参画により、まちづくりや計画の更新等を進めていく場合には、現在の各地区のまちづくり協議会の廃止・統合や新たな枠組みを検討する必要がある、有効性は2とした。 ・横浜市側では、大船駅北第二地区再開発事業の工事に着手しており、両市の市境付近において、大船駅周辺の一体性・回遊性を確保するため横浜市と協議し、必要な取り組みを進めていくため、予算規模の方向性をAとした。	

平成28年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	・平成24年度に、県道横断デッキの計画幅員を3mとし、笠間口前の横断歩道を廃止する横浜市の基本計画が示されたが、現状の歩行者交通量も踏まえ、鎌倉市側の賑わいや歩行者動線に配慮した計画とするための協議・調整 ・大船駅周辺各地区のまちづくりのこれまでの成果と課題を整理し、今後の各計画の取扱い方針を検討する必要がある。 大船駅北第二地区市街地再開発事業については、情報を共有し、鎌倉市側のまちづくりへの影響を考慮し、横浜市との調整・連携を行う必要がある。		
課題解決のために行った平成28年度の取組	大船駅周辺地区都市づくり基本計画(案)及び各地区で策定したまちづくり計画の進捗状況を確認するとともに、大船駅北第二地区市街地再開発事業の実施にともなう課題等について、関係者と協議・調整を進めた。	☐ 解決 ☒ 一部解決 ☐ 未解決	
未解決の課題、新たな課題とその理由	横浜市は、大船駅北第二地区市街地再開発事業の実施に合わせ、両市の市境付近の整備として、県道の東西をつなぐ横断デッキの整備、老朽化している大東橋の架け替えを実施したい意向であり、鎌倉市に対し、三日月街区の一部(約4㎡)の買収などの協力を要望しているが、用地取得には権利者の理解を得るとともに、用地費だけでなく、建物補償・営業補償等の費用を要する。		

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

[illegible]

比較事項									
団体名									
他市実績									

比較事項									
団体名									
他市実績									

当該事業実施に伴う 他市比較に関する 考え方	大船駅は横浜市及び鎌倉市の市境に位置することから、当該事業においては神奈川県・横浜市・鎌倉市で構成する大船駅周辺地区整備連絡協議会を設置し、まちづくりに係る調整等を行っている。他市においても同様に市域をまたぐまちづくりに取り組んでいることから、本市においても継続したい。
---------------------------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

事業実施に係る指標										
指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
	目標値									
	実績値									
	達成率									

指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
	目標値									
	実績値									
	達成率									

指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
	目標値									
	実績値									
	達成率									

当該事業実施に伴う 指標の推移に関する 考え方	
--	--